



DOCOMO TEAM DANDELION RACING

Team Release

予選レポート

2022/4/10 Rd-2 FUJI Speedway

天候：晴れ 気温：21℃ 出走台数：21台

開幕戦第1大会の富士スピードウェイ。昨日のRd1に続き、Rd2の公式予選が行われた。

昨日よりさらに気温は上昇し、気温は21度、路面温度は30度まで上昇。

また、昨日の強い風は止み、絶好の観戦日和となった。

A組 2021年度ルーキーオブザイヤー獲得の大津選手は、昨日と同じく開始すぐにフロントタイヤのみ新品を履いてコースイン。

すぐにピットインし、リアタイヤを新品に換えてアタックへ。第1セクター、第2セクターのタイムは悪くないが、第3セクターでのタイムを伸ばせず、6番手で第2予選へ。

B組 牧野選手は、開始すぐにユーズドタイヤを履いてコースイン。

車両の感触を掴み、予選残り7分のタイミングでニュータイヤを履いてコースイン。

タイヤのウォームアップランを2計測したのち3周目にアタックを行う。

しかし大津選手同様に、第3セクターでのタイムが伸びず6番手。

このまま第2予選へと思っていたが、チェッカー間際にライバルが一つポジションを上げ7番手に。Q1敗退となった。

第2予選に進んだ大津選手は、残り時間6分でコースイン。2週のウォームアップの後アタックラップに入った。

セットアップを修正して臨んだ第2予選だったが、苦戦する状況は変わらず12位で予選を終えた。

5：牧野任祐選手 予選13位 (第1予選B組7位) HONDA 勢6位

昨日の良くない部分に対策をして臨みました。特に第3セクターの対策としてセットアップを変えました。第3セクターのフィーリングは向上したのですが、好調だった第2セクターでの取り分が減ってしまい、トータルでの上げ幅が小さく、第2予選に進むことができませんでした。ただ、決勝では特に重要になってくる第3セクターが良くなっているので、スタートをしっかりと決めて上位を目指します。

6：大津弘樹選手 予選12位 (第1予選A組6位 第2予選12位) HONDA 勢5位

昨日とはセットアップを変えて臨みました。第1予選はギリギリ突破できましたが、第2予選でのタイムの上げ幅が思うように稼げず12番手からのスタートとなりました。

予選で試したセットアップは、昨日の開幕戦よりもいい感触ですから、決勝に向けては少ない時間の中ですが、チームとしっかり準備してさらに良い車にして臨みます。



決勝レポート

2022/4/10 Rd-2 FUJI Speedway

天候：晴れ 気温：24℃ 出走台数：21台

2レース制で開催される開幕戦第1大会富士スピードウェイ第2戦決勝は、予選からわずかに2時間半でレーススタートの時を迎える。

午前中無風だったコースは、昨日とは逆にメインストレート上向かい風がやや強くなってきた。気温もさらに上昇し、気温24度、路面温度も30度を超えた。

3番グリッドの選手がエンジnstールでスタートできなかったが大事には至らず、大きくポジションアップした牧野選手と大津選手は共にバトルをしながら走行。しかし、牧野選手はダンロップコーナーで松下選手に追突をされスピン。リアタイヤにダメージを受けてリタイヤを余儀なくされた。このことでセーフティカーが導入される。

5周目にレースが再開されると、大津選手はアレジ選手に迫るが抜くことはできず、ピットウィンドウが開いた10周目にピットインしたアレジ選手をアンダーカットすべく翌11周目にピットインしタイヤ交換を済ませた。

その後大津選手はトップ集団と変わらぬ24秒台のペースで20周にわたりアレジ選手との攻防を繰り返して、31周目にアレジ選手をパス。7位に順位を上げたが、残り10周で6番手には追いつくことが出来ず7位フィニッシュ。4ポイントを得た。

5：牧野任祐 リタイヤ

第1戦、午前中の予選と、車のバランスは少しずつですが進歩していたので、さらに空力部分での修正を加えて決勝に臨みました。8分間のフリー走行でもフィーリング良く、スタートでも大きく順位を上げることが出来ていたため、追突によるリタイヤはもったいないという悔しいレースになりました。7月にも富士戦がありますので、今回の結果をよく検証し臨みたいと思います。

次戦鈴鹿は富士とは大きく特性の異なるサーキットですから、一度気持ちもリセットし、良いところと問題点を整理して挽回したいと思います。

6：大津弘樹選手 7位 HONDA 勢3位

スタートでエンジnstール車両がいましたが、スタートはとてよくて、牧野選手と争いながら大きく順位を上げることが出来ました。車のフィーリングは週末の中でもっともよく、ペースも安定していました。アレジ選手を早い段階で抜くことができれば、違った展開になったと思うので、相手をオーバーテイクするにあたっての技術ももっと向上させなければと思いました。2週間後の鈴鹿戦ですが、テストの時点から非常にいいパフォーマンスを見せることができているので、相性のいいサーキットですから、しっかり準備して本来の力を取り戻したいと思います。